



▲ダソルさんが鳩山町コミュニティ・マルシェで行っている「韓国語講座」、初級・中級・上級コースを週1回行っています。



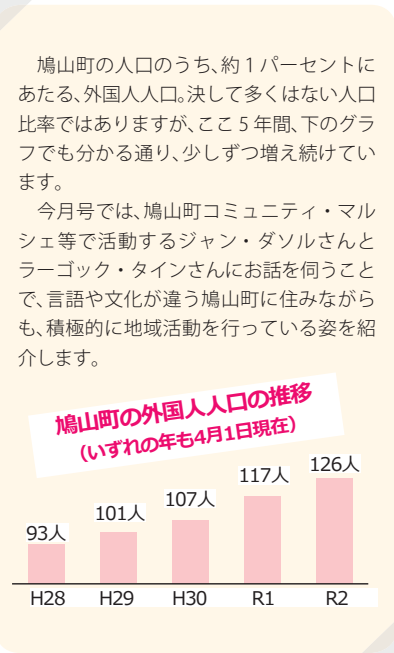
鳩山町はもう一つの「地元」になりました。

特集

“あなた”は “どうして” 鳩山に？

～海外出身者による積極的地域活動のカタチ～

小さな町で見られる
大きな交流のカタチ



鳩山町の人口のうち、約1パーセントにあたる、外国人人口。決して多くはない人口比率ではありますが、ここ5年間、下のグラフでも分かる通り、少しずつ増え続けています。

今月号では、鳩山町コミュニティ・マルシェ等で活動するジャン・ダソルさんとラーゴック・ティンさんにお話を伺うことで、言語や文化が違う鳩山町に住みながらも、積極的に地域活動を行っている姿を紹介いたします。

元々は、U・15サッカーの韓国代表であり、ポルトガルでも活動していたダソルさんは、現在はサッカーのフジカルコーチを目指して大東文化大学スポーツ科学科で学ぶ3年生です。

現在住んでいる、学生用シェアハウス「はとやまハウス」に入居する前は、東京のシェアハウスで暮らしていましたが、2年間東京から通っていました。遠いことから大学に近い物件を探して

いて、またまた見つけた「はとやまハウス」に、今年の4月から入居したということでした。

「最初は学校が近いというメリットしか正直期待していなかった」と話すダソルさん。しかし、はとやまハウスに入居する学生は、鳩山町コミュニティ・マルシェで月32時間働くこと、賃料が無料になるシステムを利用するうちに考えが変わったと言います。

「マルシェでスタッフとして働くこ

がっていると言います。「言語も大と話したり、生活すると成長します。最近僕が聞いたら皆さんが日本のことを教えてくださる。僕が教えるだけではなく、僕も教えてもらっていることに感謝しかありません」と話してくれました。

だからこそダソルさんは留学生にこそ、「東京のシェアハウスなどに入っていると、同じ言語しか使わず、地元の人と触れ合う機会など多すぎない。僕は鳩山町がもう一つの地元になりました。またコミュニティ・マルシェで活動すること、人生ですごく良い経験になると思うので、はとやまハウスをすすめたい」と言います。

将来的には、国を問わず、サッカーのフジカルコーチになりたいダソルさん。韓国語講座だけでなく、鳩山町の子どもたちと、サッカーで交流したいと希望を話していました。

ジャン・ダソルさん
韓国出身。大東文化大学スポーツ科学科に留学中であり、学生用シェアハウス「はとやまハウス」に入居している。U-15サッカーの元韓国代表であり、大東文化大学のサッカー部ではコーチも務めている。鳩山町コミュニティ・マルシェでスタッフとしても働く一方で、韓国語講座を開催している。(現在、韓国語講座の新規受講生募集はしていません。)

ジャン・ダソルさん
講師

関連イベント情報

運動・スポーツ習慣化促進事業 **趣味とスポーツ** 参加者募集

「鳩山町運動・スポーツ習慣化促進事業」の一環として、韓国文化講座と簡単な体操にご参加いただくコースを実施しています。途中からの参加も可能です(事前申込必要)。ぜひご参加ください。

■日時 12月4日、11日、18日、25日、1月8日、15日、22日、29日(いずれも金曜日)午後1時から午後2時まで

■場所 鳩山町コミュニティ・マルシェ研修室

- 内容
 - ①ジャン・ダソルさんによる韓国文化等の講座
 - ②運動の専門的知識を学ぶ大東文化大学スポーツ・健康科学部の学生と行う簡単な運動
- 参加費 1回100円(保険料)
- 持ち物 マスク、タオル、動きやすい服装でお越しください。
- 申込・問合せ 町包括支援センター ☎296-7700

とでいろいろな人と関われるだけでなく、自分が興味があること等の活動もできるのは、学生にとっても良い経験。東京ではそうそうできることではない」と話すダソルさん。

現在、ダソルさんが講師として行っている韓国語講座も、元々はマルシェで行ったイベントがきっかけだったということ。僕が韓国人だということ、いろいろな人が興味をもってくださって、マルシェを盛り上げるために、イベントを開くことになった。それなら大盛況で、参加者の中から韓国語講座を行ってくださいという声があがって」という経緯で始まった講座は、現在、初級・中級・上級の3クラス制でそれぞれ週1回行っています。

「皆さんにすこく愛されているという感じがします。イベントも含めると受講生は、10代から80代までと年齢層も広く、僕のことを孫や息子のようにならぶてくれます」と、ダソルさんは嬉しそうに話してくれました。昔からスポーツなどを通じて文化の懸け橋になったかったそう。「韓国の文化を少しでもうまく伝えていければいい」「言葉がうまく通じていないから誤解も生まれてしまう。そこを何とかしたいためにも講座を行っている」ということでした。

また講座では、かつて自分が日本語を学んだ経験も「外国語を学ぶ人の気持ちの理解や教えるポイント」に繋

鳩山町コミュニティ・マルシェ

まちおこしカフェに「あなたも」
出品・運営してみませんか？

鳩山町コミュニティ・マルシェ内の「まちおこしカフェ」は鳩山町の活性化を目的として「地域特産品（一定の要件あり。詳しくはお問い合わせください）」を販売等する施設です。

■まちおこしカフェ出品者募集中

まちおこしカフェの販売コーナーに地域特産品を出品し、販売を委託します。

■まちおこしカフェ「ワンディシェフ」募集中

「趣味を仕事にしたい」「現在営業している飲食店の出張調理でお客様の幅を広げたい」などとお考えの方は、シェアキッチンを利用して、ワンディシェフをしてみませんか。

■申込・問合せ 鳩山町コミュニティ・マルシェ
☎ 272-7528

ラーゴック・タインさん
も出品中

「ベトナムは半年ほどの雨季と乾季しかないで、日本の自然は、特に秋があつて面白いです。紅葉がきれいですし、冬は雪、春は桜などがきれいです」と話してくれました。

今年の9月に出産し、お母さんとなったタインさん。赤ちゃんをつれて散歩をしている最中に、気になった自然の風景を撮影し、刺繍のモチーフにしていくのです。

今は育児等の時間をぬって、制作をしているタインさん。「これから時間ができれば、バッグとかハンカチとか作っていきたい。毎日、散歩しながら、作りたいなと思っています」

「鳩山町で生活するのは、元々楽しかったけど、出品してみてもっと楽しくなった」と話してくれました。タインさんの、今後のより一層の活躍が期待されます。



▲ラーゴック・タインさんが刺繍して作成した小物の数々。特にウサギの刺繍のもの（写真左下）は赤ちゃんがお腹にいたときに作成した思い出のものだそうです。

鳩山町コミュニティ・マルシェ 【12月】日替わりランチカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		ポルトガルサンド	東京ご飯と和風キッシュセット	ハヤシライスonライスコロカケ	豚肉の甘酒味噌焼き	ハヤシライス (700円)
6	7	8	9	10	11	12
休	野良菜ご飯の和風オムライス小鉢付	タコス & トルタ	ハヤシライス (700円)	卵りおからコロカケランチ	バターチキンカレー	東京ご飯と和風キッシュセット
13	14	15	16	17	18	19
休	タコス & トルタ	ポルトガルサンド	東京ご飯と和風キッシュセット	ハヤシライスonライスコロカケ	豚肉の甘酒味噌焼き	ポルトガルサンド
20	21	22	23	24	25	26
休	野良菜ご飯の和風オムライス小鉢付	タコス & トルタ	ハヤシライス (700円)	卵りおからコロカケランチ	ハヤシライス (700円)	ハヤシライス (700円)
27	28	29	30	31		
休	タコス & トルタ	休	休	休		



まちおこしカフェに出品したい私の
背中を押してくれたのは、近所に
住む先輩出品者の方でした。

ラーゴック・タインさん
ベトナムのホーチミン市出身。独学で勉強した刺繍の小物を、鳩山町コミュニティ・マルシェのまちおこしカフェに出品している。自然をモチーフにしており、丁寧で、かわいらしい仕上がりになっている。

関連トピックス

文化庁 日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」公開中



文化庁では、令和2年6月から日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでの暮らし」を公開しています。

このサイトは、国内に在住し、日本に住み始めたばかりで、日本語を初めて学ぶ人などを対象に制作されています。

日本で暮らす外国人が経験する、生活の場面で使う場面の動画が中心で、独学で日本語の習得を目指す方の教材としてはもちろん、日本語授業でも活用できます。

■対応言語 日本語、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語(ローマ字も対応)

■URL <https://tsunagarujp.bunka.go.jp>

つながるひろがる にほんごでの暮らし 検索

笑 顔のステキなラーゴック・タインさんは、ベトナムのホーチミン市出身。洋菓子を作る仕事の実習生として、1年間来日したのが、日本と関わりを持った最初のことです。

一度ベトナム帰国後、日本語学校に留學生として再度来日。卒業後結婚し、平成30年の5月から鳩山町に住み始め、現在は鳩山町コミュニティ・マルシェのまちおこしカフェで刺繍の小物などを出品しています。

「母は洋服を作っていました。私は本格的に刺繍を勉強したことはありません。物を作るのが好きなので、動画などを見ながら、毎日練習して作るようになりまして」「マルシェは気になつており、ずっと出品してみたくたつ」と話すタインさん。その背中を押してくれたのは、既にマルシェに出品していた近所の人だということです。

「作ったものを見てもらってすごく良いと言ってもらえましたし、刺繍は他に出品者がいないからと、強く勧められました。またSNSに載せたところ、ベトナム出身の人が購入してくれたことも自信につながり、出品することになりましたと話してくれました。現在は一つ一つ丁寧に作った作品を、月2〜3品出品し「たまにマルシェに顔を出して、売れていると分かるのが嬉しい」とのことです。

タインさんの刺繍のモチーフには花などが多いですが、自然が好きなこと